

第45期 株主通信

2024年4月1日 ▶ 2025年3月31日



...for patient comfort.



ごあいさつ

―通期実績は過去最高を達成、さらなる成長を目指して―



株主の皆さまには平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

2025年3月期は2024年6月の保険償還価格の改定により多くの品目で販売単価が下落しましたが、中核事業での「競争力のある製品の継続的導入」や成長事業での「新領域の拡大」が順調に進み、売上高および各段階利益は通期ベースで過去最高を記録し、二桁増収・二桁増益を達成いたしました。

2026年3月期はEP/アブレーションにおけるPFA（パルス・フィールド・アブレーション）の浸透により一部製品の減収が見込まれますが、新領域での製品ラインナップ強化や既存領域での競争力のある新製品の拡販に注力し、過去最高の売上高および各段階利益の更新を目指します。

株主の皆さまにおかれましては、今後ともご支援を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長
社長 執行役員 **鈴木 啓介**

Q 2026年3月期（当期）の業績の見通しについて教えてください

A 2026年3月期の連結業績予想は、売上高593億円（前期比4.8%増）、営業利益129億円（同4.7%増）、親会社株主に帰属する当期純利益93億5千万円（同0.3%増）と、いずれも前期に引き続き過去最高となる目標を掲げました。

当社グループの事業環境は全般的に良好に推移することを予想しており、医療需要の増加を背景に症

例数も増加基調が継続する見込みです。中核事業であるEP/アブレーションおよび心血管関連は、コア製品の心腔内除細動カテーテル、大腿静脈用止血デバイス、Frozen Elephant Trunkが成長ドライバーとなり、当期も堅調に推移する見通しです。新領域も中期経営計画の目標値（2028年3月期に売上高110億円）の達成に向け、脳血管関連と消化器で上市した各製品の市場シェアの拡大を図ることで、大幅な伸長を見込んでいます。

販売費及び一般管理費については、中長期的な成長に向けた投資として研究開発費や人件費の増加はありますが、当期の営業利益率は前期と同水準の21.8%を確保できる見込みです。

なお、配当予想については、株主還元の方針にしたがい、1株当たり54円（前期比1円増、配当性向40.5%）としています。

Q 今後のグローバル展開の展望について教えてください

A グローバル展開は新たな重点施策として、今後、取り組みをさらに加速させていきます。まずは、日本の薬事承認で製品を展開できる中東やアジアの十数か国への進出を進めます。現地販売代理店を通じてEP/アブレーション、心血管関連、消化器の幅広い自社製品ラインナップを展開することで市場でのプレゼンスを高めてまいります。現状の海外売上高は10億円程度ですが、中期経営計画の最終年度である2028年3月期には20～30億円を目指します。さらに、長期的には欧州や米国市場への参入を目指します。この準備として、欧州のCEマークや米国のFDA認証などの厳格な規制に適合する品質管理システムの構築や、グローバル供給を見据えた製造キャパシティの拡充にも着実に取り組んでまいります。

Q CardioFocus社とのパートナーシップについて教えてください

A 2025年2月に米国のCardioFocus社とPFA（パルス・フィールド・アブレーション）に関する戦略的パートナーシップを締結しました。PFAはパルス電界を用いる不整脈の最新の治療法です。日本でも2024年に販売が開始され、急速に普及しています。グローバルでは、PFA関連の市場規模は潜在的に1兆円程度と推定されています。当社の高機能カテーテルとCardioFocus社の豊富なPFAに関する臨床知見と出力装置のノウハウを組み合わせることにより、差別化された製品を開発し、この巨大市場に参入してまいります。当社の収益への貢献開始は2027年ごろを想定しており、CardioFocus社のPFAカテーテル「QuickShot」を当社がOEMで供給開始することが最初の重要なマイルストーンです。

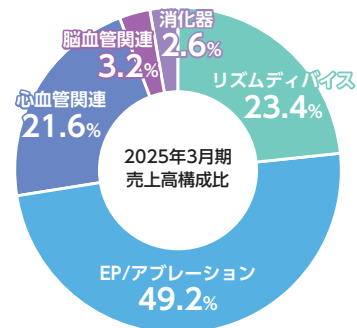


PFAカテーテル「QuickShot」
※国内未承認品

販売ハイライト

品目別の販売状況

- リズムデバイスは、コア製品のS-ICDが新規植込み症例でシェアを拡大しましたが、ペースメーカにおいて保険償還価格が大幅に下落し、販売も低調に推移したため、わずかに減収となりました。
- EP/アブレーションは、心房細動の症例数の増加により心腔内除細動カテーテルの販売が堅調に推移したほか、コア製品の大腿静脈用止血デバイスが採用施設数を拡大したことで、大幅な増収となりました。
- 心血管関連は、コア製品のFrozen Elephant Trunkが市場のトレンドになっている人工血管一体型モデルの販売数量を大きく伸ばしたほか、その他の製品も総じて販売が堅調に推移したことにより、増収となりました。
- 脳血管関連は、新規モデルを追加した塞栓用コイルや血栓吸引カテーテルの販売が好調に推移したほか、ステントリトリバーの販売を開始したことにより、大幅な増収となりました。
- 消化器は、主力の胆管チューブステントの販売が好調に推移したほか、肝癌治療用ラジオ波焼灼電極針の販売移管に伴い在庫を一括納入したことにより、大幅な増収となりました。



リズムデバイス

売上高
13,267百万円
(前期比 $\triangle 1.7\%$)

▼主要取扱品目

- ・心臓ペースメーカ
- ・T-ICD（経静脈植込み型除細動器）
- ・S-ICD（完全皮下植込み型除細動器）など

EP/アブレーション

売上高
27,845百万円
(前期比 $+14.8\%$)

▼主要取扱品目

- ・EP（電気生理）カテーテル
- ・心腔内除細動カテーテル
- ・大腿静脈用止血デバイス など

心血管関連

売上高
12,206百万円
(前期比 $+7.0\%$)

▼主要取扱品目

- ・人工血管
- ・Frozen Elephant Trunk
- ・ステントグラフト など

脳血管関連

売上高
1,842百万円
(前期比 $+101.9\%$)

▼主要取扱品目

- ・塞栓用コイル
- ・血栓吸引カテーテル
- ・ステントリトリバー など

消化器

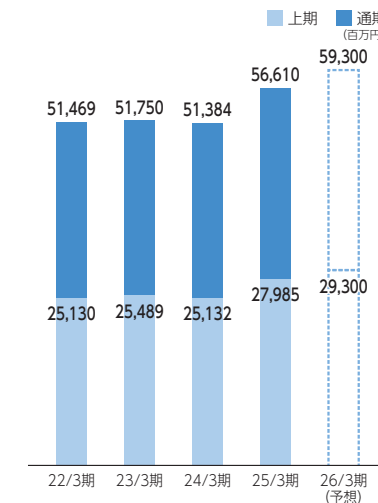
売上高
1,448百万円
(前期比 $+10.2\%$)

▼主要取扱品目

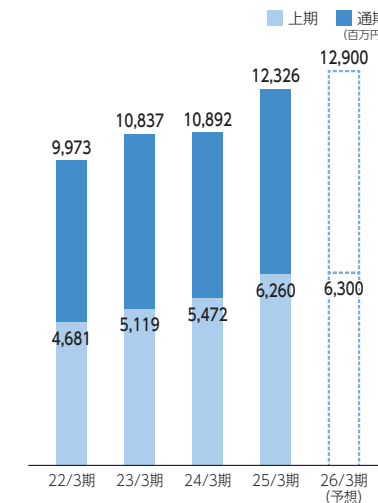
- ・胆管チューブステント
- ・大腸用ステント
- ・肝癌治療用ラジオ波焼灼電極針 など

主要連結財務データ

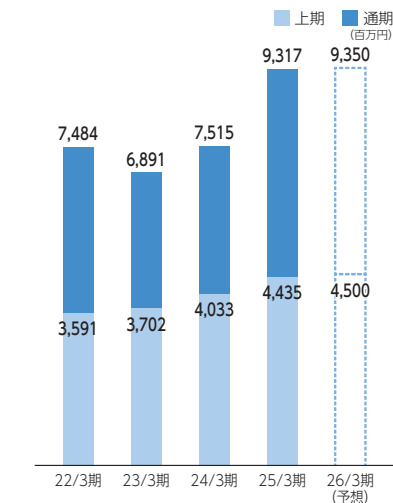
売上高



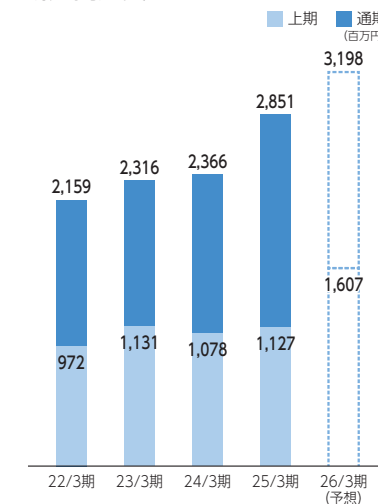
営業利益



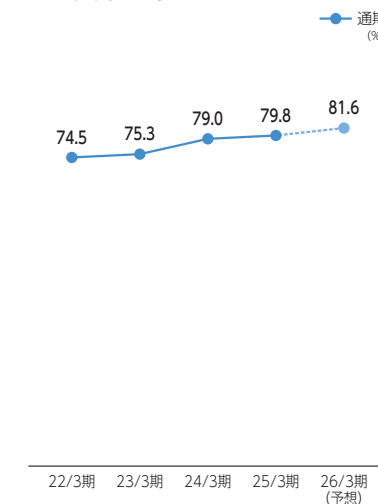
親会社株主に帰属する当期純利益



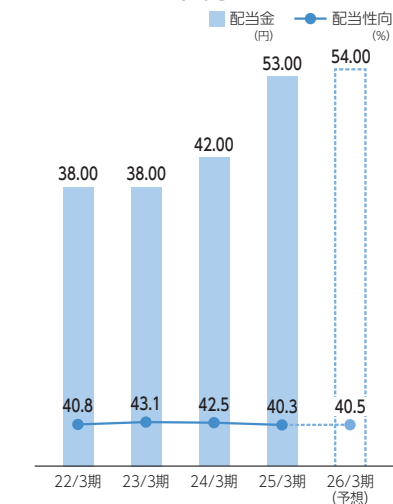
研究開発費



自己資本比率



配当金・配当性向



特集① ー中期経営計画の上方修正ー

■ 中期経営計画の上方修正

当社は、2023年5月10日に公表した「中期経営計画（2024年3月期から2028年3月期）」について、最終年度となる2028年3月期の連結業績の数値目標を下記のとおり上方修正しました。重点施策が計画を上回る速度で進捗したことに加え、症例数が想定以上に増加したことも追い風となりました。今後の事業環境については、同様の傾向が続くと見込んでいます。さらに、当初の計画の立案時にはなかった新しい成長戦略も加速させてまいります。

	2028/3期		修正内容	修正の主な理由
	旧目標 (2023/5設定)	新目標 (2025/5設定)		
売上高	630億円	700億円	+70億円	・心房細動の症例数の想定を上方修正 ・グローバル売上高の伸長
新領域売上高	80億円	110億円	+30億円	・経カテーテル生体弁（TAVI/TAVR）への参入
営業利益率	20%水準（每期）	20%水準（每期）	変更なし	—
EPS	120円	145円	+25円	・売上高成長に伴う利益成長
ROIC	12.0%	13.0%	+1.0pp	・粗利率と棚卸資産効率の改善に向けた取組みを推進

■ 新しい成長戦略

当社は、計画立案時にはなかった4つの成長戦略を推進します。これらの戦略は、重点施策である「新領域の拡大」および「競争力のある製品の継続的導入」を強化するものに加え、成長余地の大きい自社製品・自社技術のグローバル展開を加速させるものです。

① 構造的心疾患領域への参入

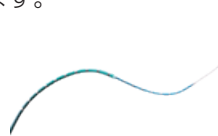
市場規模が大きく成長性が高い経カテーテル生体弁で、構造的心疾患領域へ参入します。当社は、本製品を中長期での成長ドライバーと位置付けています。



経カテーテル生体弁
「Myval Octacor」*1

② PFA製品の共同開発およびグローバルPFA市場への参入

米国のCardioFocus社と協力し、急速に普及しているPFA*2製品の開発を加速させます。両社の独自技術を盛り込んだ競争力のある製品で、グローバル市場に挑戦します。



細径EPカテーテル
「EPstar Fix AIV」



人工血管
「J Graft」

③ グローバル売上高の拡大

カテーテルや人工血管など、幅広い自社製品のグローバル展開を推進します。日本の薬事承認で販売可能な中東やアジアから開拓し、長期的には市場規模が大きい欧米への進出を目指します。

④ OEM製造の推進

長年培ってきたカテーテル等の製造技術を活かし、国内外でのOEM製品の展開を推進します。

*1 国内未承認品 *2 バリス・フィールド・アブレーション。新しいカテーテルアブレーション治療の方法。

特集② ー大腿静脈用止血デバイス「VASCADE MVP」とはー

■ 大腿静脈用止血デバイス「VASCADE MVP」

大腿静脈用止血デバイス「VASCADE MVP」は、アブレーション治療後に使用される止血のための医療機器です。アブレーション治療は、通常太ももの付け根にある太い血管にカテーテルを2～3本程度挿入して行われます。治療後、カテーテルを血管から抜き取ると、血液が体外に流れ出てきます。出血を止めるための手段として、手で圧迫する方法、糸で縫合する方法、デバイスで止血する方法があり、VASCADE MVPによる止血は3つ目の方法にあたります。VASCADE MVPは、カテーテルを挿入した血管から皮膚までの出血路に生体吸収性のコラーゲンを注入することで、安全かつ迅速に止血を行うことができます。



大腿静脈用止血デバイス「VASCADE MVP」



手で圧迫する方法



糸で縫合する方法



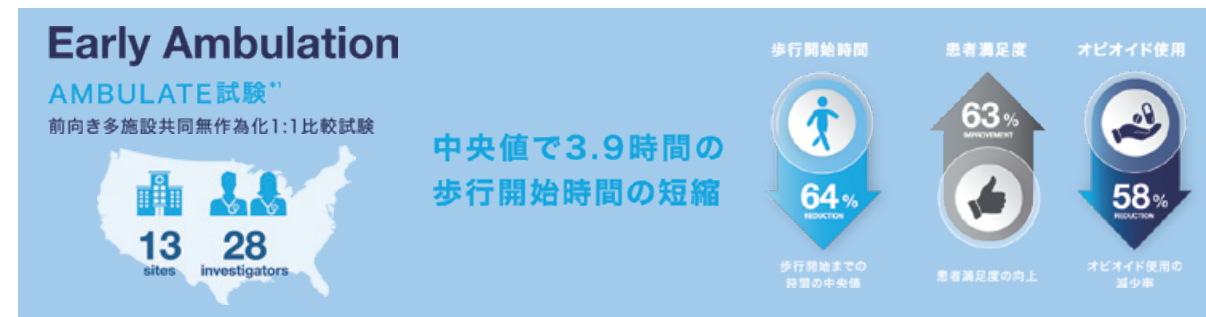
デバイスで止血する方法

■ VASCADE MVPの強み

VASCADE MVPは、販売開始から約一年で、全国のカテーテルアブレーション実施施設の半数にあたる約400施設に採用されました。累計販売本数は10万本を超え、今日の心房細動症例の3割以上で使用されています。

このような急速な普及の背景には、VASCADE MVPがもたらす明確な臨床的利点があります。それは、止血時間の短縮と患者さまの早期退院への寄与です。米国で実施された臨床試験*1によると、VASCADE MVPは従来の手で圧迫する止血方法と比較して、止血完了までの時間を約半分に短縮し、患者さまが歩行可能になるまでの時間を6.1時間から2.2時間に短縮できることが証明されました。

これらの効果は、患者さまのクオリティ・オブ・ライフの向上に貢献するだけでなく、医療従事者の長時間労働の改善にも貢献します。当社は、VASCADE MVPを通じて、患者さまの早期退院と医療現場における効率化の両立を実現し、日本の医療課題の解決に貢献してまいります。



*1 Natale A, et al. Venous vascular closure system versus manual compression following multiple access electrophysiology procedures: The AMBULATE Trial. JACC Clin Electrophysiol 2020; 6(1):111-124.

トピックス

株主・投資家の皆さまとの対話を深める取組み



前：英語版決算説明動画

後：インベスターズガイド（2024年12月版）より抜粋

当社は、株主・投資家の皆さまとの対話を深めるため、適時に、公平、かつ、わかりやすい情報提供に取り組んでいます。その一環として、株主の皆さまの議決権行使に資する情報を提供するため、2024年3月期の有価証券報告書より、定時株主総会の1週間前に開示する取組みを始めました。また、当社に対する理解を深めていただくため、インベスターズガイドの大幅な改訂も行いました。専門用語は可能な限り使用せず、平易な用語・表現で当社の事業を紹介することで、わかりやすい情報発信に努めました。

さらに、海外投資家さまに向けて、言語による情報格差を解消するため、日本語の開示資料と同一内容となるよう英文資料の質的向上に取り組みました。決算説明会についても、日本語による決算説明会の開始と同時に、AIを活用した英語版の決算説明動画を配信しております*1。

株主・投資家の皆さまとの対話は、当社の企業価値向上のために不可欠な取組みであると考えています。今後も株主・投資家の皆さまとの建設的な対話を促進するため、IR活動の質の向上に継続的に取り組んでまいります。

*1 <https://vimeo.com/1082059635/011261bbfe?share=copy>

会社概要（2025年3月31日現在）

商 号	日本ライフライン株式会社
所 在 地	東京都品川区東品川二丁目2番20号
設 立	1981年2月6日
資 本 金	2,115百万円
従 業 員 数	連結1,250名 単体1,004名
連 結 子 会 社	JLL Malaysia Sdn. Bhd.

取締役（2025年6月26日現在）

代表取締役社長 社長執行役員	鈴木 啓介	社 外 取 締 役	池井 良彰
代 表 取 締 役 副社長執行役員	村瀬 達也	社 外 取 締 役	川原奈緒子
取締役常務執行役員	江川 毅芳	社 外 取 締 役	中川 理恵
取締役常務執行役員	山田 健二	取 締 役 (常勤監査等委員)	高橋 省悟
取締役常務執行役員	高宮 徹	社 外 取 締 役 (監査等委員)	苅米 裕
取締役上席執行役員	干場由美子	社 外 取 締 役 (監査等委員)	太田 知成
取締役上席執行役員	伊藤 孝志		

株主メモ

事 業 年 度	4月1日から3月31日まで
定時株主総会	6月
単 元 株 式 数	100株
配 当 金 受 領 株 主 確 定 日	3月31日 なお、中間配当を実施する場合の株主確定日は、 9月30日といたします。
上 場 取 引 所	東京証券取引所 プライム市場
公 告 方 法	電子公告 https://www.jll.co.jp ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じた場合は、日本経済新聞に掲載して行います。

株式に関するお問い合わせ

1. 住所変更、単元未満株式の買取・買増請求、配当金受取方法の指定・変更等

▶ 証券会社等の口座に株式をお持ちの株主様
口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。

▶ 特別口座に記録された株式をお持ちの株主様
特別口座管理機関にお問い合わせください。

三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
電話：0120-232-711（通話料無料）

2. 未受領の配当金について

三菱UFJ信託銀行本支店で支払いいたします。

日本ライフライン株式会社

〒140-0002 東京都品川区東品川二丁目2番20号
電話 03-6711-5200
URL <https://www.jll.co.jp>



見やすく読みまちがえにくい
ユニバーサルデザインフォント
を採用しています。